

製品名: IRF2 (19Z15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12738**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:200-1:500
分子量	39kDa

抗原情報

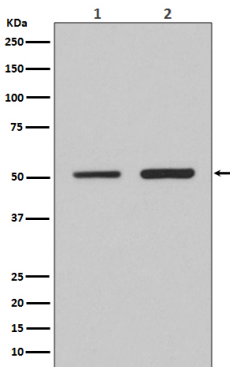
遺伝子名	IRF2
別名	Interferon regulatory factor 2; IRF 2;
遺伝子 ID	3660.0
SwissProt ID	P14316
免疫原	ヒト IRF2 の合成ペプチド

背景

インターフェロン調節因子 (IRF) は、Jak/Stat 経路内で機能し、ウイルス感染に反応してインターフェロン (IFN) および IFN 誘導性遺伝子の発現を制御する転写因子ファミリーを構成します。IRF は、病原体防御、自己免疫、リンパ球の発達、細胞増殖、および形質転換感受性において重要な役割を果たします。IRF-2 は転写活性化因子と転写抑制因子の両方として機能します。特に、I 型 IFN および IFN 誘導性 MHC クラス I 遺伝子の上流調節領域 (インターフェロンコンセンサス配列 (ICS)) に結合し、それらの遺伝子を抑制します。また、H4 および IL7 を含むいくつかの遺伝子の活性化因子としても機能します。ISRE プロモーターに恒常的に結合して IL7 を活性化します。H4 のサイト II (HiNF-M) プロモーター領域に結合し、細胞増殖中に転写を活性化することにより、細胞周期の制御に関与します。IRF1 の転写活性化に拮抗します。

研究分野

画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) 3T3 細胞溶解物における IRF2 発現のウエスタンブロット解析。